

1 住宅

問題 1 答 1



- 車いす使用者が利用するキッチンセットは、車いすでは横へ移動することが難しいため、**I字型よりもL字型の方が使いやすい。**
- ドミノ型住宅は、建築家ル・コルビュジェが発案した柱と床と階段で構成された鉄筋コンクリート構造の骨組みで、平面計画の自由度は高くなる。
- 設備コアのキッチン、洗面、浴室、便所を集中させるコアプランは外壁側に居室を設けることができ、換気、採光など居住性を高めることができる。
- 収納空間のスペースは、収納するものの大きさに合わせて奥行きを計画するが、あまり奥行きが深すぎると、ものの出し入れが困難になる。収納面積は延べ面積の10%を目安に、多くの面積を確保できるようにする。

問題 2 答 4



- 親世帯のゾーンと子世帯のゾーンを分離する場合、共用部分として玄関のほかに、利用回数の少ない応接室を共有することは、プライバシーの問題がなく、空間を有効利用できる。
- 親世帯のゾーンは、車いすや歩行介助が必要になった場合を考慮して、廊下幅を85cm以上とし、手すりを床上75cm程度の高さに設置をすることは有効である。
- 親世帯の便所や浴室は、寝室の近くに設ける。浴室の浴槽は、腰掛けて移動できるように浴槽の縁の高さと同じ高さの台を設置することは望ましい。
- 玄関の上がり框は、親世帯の高齢化に考慮して、できるだけ**段差がないほうがよい。段差をつける場合は2cm以下とし、その段差が目立つようにしなければならない。**

問題 3 答 3



- ハーフウェイハウスとは、病院での治療・訓練を終了した患者等が、ADL(日常生活動作)訓練を受けることができるリハビリテーションを目的とした施設。
- シルバーハウジングとは、高齢者向けの設備、緊急通報システム等が備えられ、ライフ・サポートアドバイザーが配置される高齢者向けの集合住宅。
- モビリティハウスとは、車いす使用者などに対応するための段差の解消など車いす使用者者に適応した住宅。**設問はアジャスタブルハウスについての記述で、可動性を持つ住宅。**
- コレクティブハウスとは、個人のプライバシーの空間と共用空間を併せ持ち、居住者の複数家族が家事や育児など、協力し共同で担いあう共同居住方式。

問題 4 答 4



- 一室型住宅は、ワンルーム・マンションと同じ炊事、食事、団らん、就寝等の空間が一体となった住宅である。

- コートハウスは、地中海地方で発展をした形式で、中庭を持ち1950年～60年代に話題となった外部に対して封鎖的な都市型住宅である。
- 最小限住宅は、生活に必要な要素を最小限に追求した住宅のスタイルで第二次世界大戦後に進められたが、近年では住宅にゆとりや無駄も必要となり豊かになった。
- コア型住宅は、水廻り設備をコアとしてまとめ、住宅の中心部に配置する形式である。**設備配管の集約によるコストダウンや、各居室が外部により多く面することにより居住性を高めることができる。1950年代にアメリカで作られるようになった。

EXERCISE 解答 ① B ② C

- モジュールを基準寸法とする平面格子のグリッドをもとにプランニングを行う手法をグリッド・プランニングという。枠にはまった平面計画になりやすい。
- 住宅を構成する室をグルーピング、分けけてプランニングを行う手法をゾーン・プランニングという。規定によってゾーン分けをするので、想定と異なる住み方に対して自由度が少なくなる。

2 集合住宅

問題 1 答 2



- 階段室型の階段をライトコートと組合せ、そこにフラワーポットを並べることは豊かな空間となり、住戸へのアクセスを単調にしない工夫である。
- 中廊下型の廊下を東西軸にすることにより、開口部が南側と北側になり、**日照に配慮すると北側の開口部は望ましくない。**
- スキップ片廊下型をメゾネット形式に増改築することは、共用階段からの非廊下階へのアクセスをなくすことができ、廊下を4、7、10階などに置くだけですむ場合があるので住戸専用率を高めるために有効である。
- ポイド型とは、中央部を吹き抜けとする集合住宅で、その吹き抜け部分を利用して、エレベーターホールや、コミュニティ広場などの共用テラスを設けることは好ましい。

問題 2 答 3



- コーポラティブハウスとは、居住するための住宅の建設協同組合を設立し、協力して自ら企画、設計から入居、管理までを行う方式により建設された集合住宅である。
- スキップフロア型は、非廊下階を設けることができるので、これらの階では、2面開口が可能になり、採光や通風を確保しやすい。
- ホール型は、高層で搭状の住戸形式で、片廊下型に比べて日照、採光、通風のうえで有効であるが、**住戸ごとに方位が異なるので均一でない。**
- ライトウエル(光井戸)は、奥行きが深い住戸の通風や採光を得るための手段として設けられるもので、低・中層(2～5階)の計画の場合に有効である。

問題 3 答 1



- 事務所ビルから集合住宅に変更するにあたって、給排水の設備配管を二重床にし確